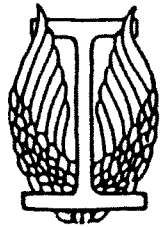


学校通信



令和6年3月
印刷
(有)後免印刷所

工業学校制
高等時
高定

ご卒業を祝して

校長 前田 康彦



厳しかった冬もようやく過ぎ去り、南国市にも少しずつ暖かな春の訪れが感じられるようになりました。

保護者等の皆様には、本校の教育方針と教育活動に深くご理解とご協力をいただいていることに厚くお礼を申し上げます。また、同窓会、後援会、教育振興会の皆様にはいつも多大なご支援をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

さて、この度晴れて卒業を迎えられた皆さん、まことにおめでとうございます。同時に皆さんの成長を温かく見守り、支援してこられたご家族の方々に心よりお祝い申し上げます。

卒業を迎える皆さんは、さまざまな思いを胸に抱いて、本校定時制に入学し、一生懸命努力し、この高校生の期間を過ごしてまいりました。定時制高校に入学し、卒業まで頑張りぬくことは簡単なことではありません。皆それぞれに、悩みや不安、苦しみがあつたはずですが、そんな困難の中にあつても、皆さんは、希望を忘れず、最後まであきらめずに頑張り続け、本日、卒業というゴールにたどり着きました。卒業証書は、その努力の証です。

この学校とともに学んだ先輩や友人、お世話になった先生方、支えてくださったご家族、そして親身になって関わってくださった地域の皆さんとの日々を今後の生活に役立て、幸せな人生を歩んでくれることを願っています。本校の卒業生として、いつまでも強い絆を大切にしてください。ここで、新たな環境に向けて3つのことを伝えたいと思います。

はじめに、正解がない課題に挑戦する気持ちを持つという事です。今、私たちは、予測が困難な不確実な時代を生きています。広い視野で見てください。頻発する大規模な自然災害、そして、世界的な戦争の危機、経済状況の変化など直面する課題が山積しています。

また、皆さんの身の回りに多くの課題があり、これから社会を生き抜いていくためには、予測するのが難しく変化する環境へ柔軟に適応する能力が求められています。それは、正解がない課題に対して、最適な答えを見出し、努力をしなければならぬということ。皆さんがこれまでの高校生活の中で得た知識、技術を、自分のためだけでなく、人のため、社会のために、役立てることは、解決の道筋が簡単に明らかにならないことが多いのですが、積極的に挑戦する気概を持つてほしいと思います。

次は、他人を理解して、上手に協働することを大切にということ。今日の産業界は異なる専門分野の技術やアイデアの融合が普通になり、他者との連携が益々重要になっていきます。専門技術の高度化よりも、様々な技術を融合して新しい価値を創造する手法が主流になりました。皆さんは社会に出ると、自分の個性を生かすと同時に他者の個性と力を尊重し、協働で目的を達成することの重要性を身に沁みて実感

されるでしょう。もし、自身かわからないことがあれば、素直な気持ちで意見を聞いてみたらいいと思います。他人の意見を一旦受け入れることで、人は成長できます。自分の心を磨くことで、チームとしても成功します。最後に、粘り強くということについてです。

もうすぐ、桜の花が一年に一度の美しい花を咲かせます。咲きそろった時の存在感は大きく、人々を幸せな気持ちにさせてくれるため、木のまわりには多くの人が集まり、木は一気に注目を浴びます。しかし、桜は人に気にかけてもらえない時期が長く準備期間が非常に長いのです。人々の活動も同じで、苦しみを実感しているほど、誰よりも人の心が分かり、後に得ることができる幸福感も大きいものです。幸せを信じて耐える精神力を持つことも大切です。

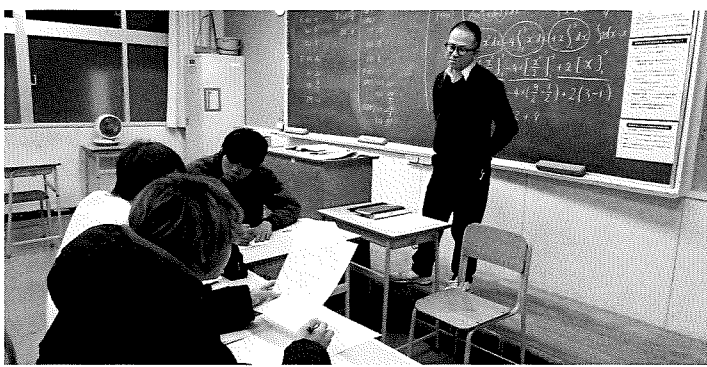
本日の旅立ちの日にあたり、巣立っていく皆さんの健康と今後の活躍、そして輝かしい未来を心から祈念し、私からの言葉といたします。

卒業によせて

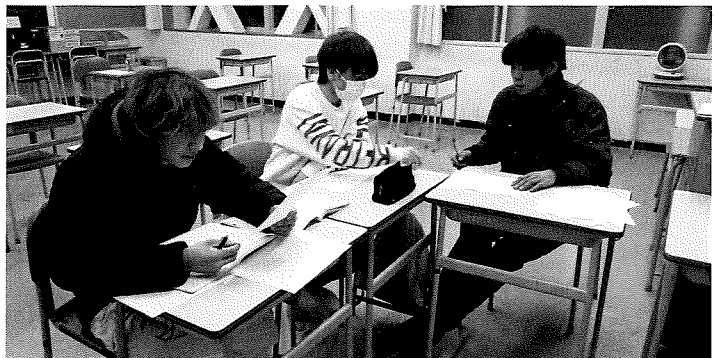
四年担任 鍋島 健



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。入学時には一見長いように感じる高校生活ですが、過ぎてみれば一瞬だったのではないのでしょうか。どうですか？入学時から成長できましたか？時間の経過とともに見た目は成長します。しかし、中身を磨くには努力が必要です。今後の人



生の中で役に立つような「なにか」を身につけられましたか？学校だけでなく、社会人としても頑張っている君たちは、日々の生活のなかで苦しいこともあったでしょう。そんな中、学校では少し甘えが出ることもあったのではないですか？ある瞬間にはハツとするような素晴らしい発言や行動もありましたが、やはり基本は苦しいことから逃げたいよね。それがある程度許される学校という場所は、憩いの場であつたのではないのでしょうか。それはそれでとても良いことだと思っています。大人も子供も、どこかで息抜きが必要です。人間誰しも弱い部分があります。四六時中強い自分ではいられないのです。卒業後、それぞれが進む進路は違いますが、いずれは皆仕事をします。その中で、逃げ場がないほど追い詰められる場面があるかもしれせん。そんなときは、一人で抱え込まず、誰かに相談してく



ださい。家族や友達、そして信頼できる大人に。学校もそのひとつの相談窓口です。職業人として私が常に考えていることは、社会では、その場に應じた適切な対応ができる能力が必要だ、ということとです。その能力は、習った内容を忘れず暗記しておくことで養われるものではないと思っています。自分で考える「これに尽きる。ここから新たな人生のスタートともいえるわけですが、今後は自分で考えて動きましょう。自

分の意志を持ちましょう。もちろん先輩から学ぶ姿勢はこれまでと同じです。

また、人生を有意義に送るためには、良い人間関係を築くことが大事です。人は一人では生きていけない。必ず誰かと関わり合って生きていきます。人と出会い、関わり合い、その中で生まれる信頼関係はなにもにも代えられない宝です。大切にしましょう。もしこれからの人生で人間関係に悩み、自分が一人ぼっちだと感じて、そんなときこそ周りに目を向けましょう。きつと君はひとりではない。自分が素晴らしい人間であることを忘れないでください。

君たちは若い。自分の能力に限界を作らないでください。可能性は常に無限大にあるのです。できないことをなにかのせいにししないでください。難題にぶつかっても、自分を信じて立ち向かってください。一生懸命生きている人には、必ず手を差し伸べる人がいます。

最後になりますが、私のつたない指導に対し、格段の理解でご協力をしてくださった保護者の皆様、本当にありが

とうございました。晴れやかな卒業の日を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。私たち教員はいつも送り出す側に立ち、なんともいえない嬉しさと淋しさを同時に感じる事ができます。世の中には様々な仕事がありますが、私はいつもの仕事を選んで良かった、と思いつつ日々過ごしています。

卒業生諸君！なにかに行き詰ったり、面白いことがあつたり、まあとにかく暇ができたら学校へおいで。転勤になつてるかもしれないけども(笑)。



卒業生からの メッセージ



◆私の高校生活

上妻 飛源

私は、中学生の時、休みがちになったことから、徐々に学校に行きづらくなってしまい、半分以上中学校にいませんでした。そのことから、高校生になって新しいクラスの人たちとうまくかわれるのか、高校の勉強についていけるのかなど不安な気持ちを持ちつつ東工業高校に入学しました。

しかし、長かった受験を終え、高校生活が始まると思っていたら、コロナウイルス感染症の流行によって、一時期休校となってしまいました。休校期間中は宿題が出ていたため、それに取り組んでいましたが、一人で勉強というのはあまり面白いものではありませんでした。

そして休校期間が終わりに近づくと、クラスメ

イトは3人いました。定時制ということ、人数が少ない印象があったため、クラスは自分ひとりかもしれないと思っていたので、とても嬉しかったことを覚えています。

授業が始まると、勉強は順調に進みましたが、クラスメイトとの交流は順調にはいきませんでした。一年生の時の学校行事は、コロナウイルスの影響で中止になったり、ソーシャルディスタンスでの実施になったりと、クラスメイトと仲良くなるきっかけはあまりありませんでした。そのためこのまま卒業までかわりがないのではないかと不安にもなりました。

定時制の学校生活は、登校する17時ごろまでは自由に過ごせました。私は平日の午前中は、家にいることが多かったため、家事を手伝ったり、趣味の時間に費やしたりしました。この時間を使ってアルバイトをする人も多いですが、

私は人とかかわるのが苦手なことや、自分はきちんと働けるのだろうかという自信のなさから避けていました。

二年生になると、スポーツフェスティバルなど学校行事も行われるようになり、クラスメイトとの交流が一年生の時よりもぐっと多くなりました。クラスメイトと連絡先を交換したり、休み時間や授業での会話が出てきたりして、学校生活が楽しいという気持ちが大きくなりました。

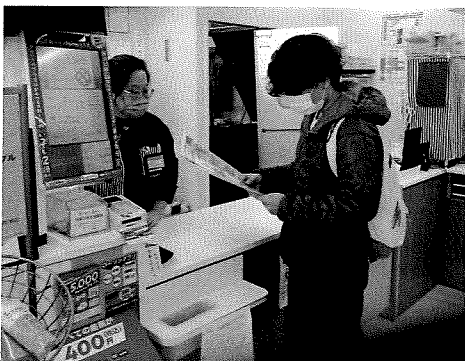
勉強面では、計算が苦手な僕にとつて専門の授業はとても難しく、それをもとに行う実習の授業でもなかなかうまくいかないことが多くありました。しかし、実習はきちんと気を付けて行わないとけがをしてしまう危険もあるため、先生方に教えてもらいながら一生懸命取り組みました。就職の際に有利になる資格も取得できるため、先生に教えてもらって、ガス溶接の試験を受け、取得しました。

三年生になってからは、卒業後の進路や就職のことを考えて、アルバイトを始めました。先程も書いたように僕は人との交流が苦手なことや、マイナスな考え方をしてしまうことから、不安な気持ちでした。怒られたり、嫌な先輩がいたりしたら、などと考えていましたが、働き始めてみると、とても優しく教えてもらいながら仕事が出来たり、店長に褒めてもらえたりしました。そのため何事もマイナスな考えから始めるのはよくないことだと実感しました。また、分らないことをそのままにしておく、周りの人やお客さんに迷惑がかかるため、分らないことは自分から積極的に聞いて学ぶという姿勢が身に付きました。僕の短所であった人見知りもアルバイトを通して少しずつ克服できていると感じます。

四年生になってからは、いよいよ自分の進路を決めるということが現実味をもって迫ってきました。これまで自分なりに考えていましたが、なんとかなるだろうとさっさと行動に移していませんでした。今まで親や先生に言われた時に、もつと早くから準備をしたり、計画的に行動を起こしたりするべきだったと思いました。そのため、早いうちからどのような職業があるのか、何が自分に向いているのか調べてみたり、インターシップなどに参加したりして自分を知ることが必要だと学びました。

皆さん、進路は決めましたか？私は、クラスメイトの進路が決まっていくなか、自分は決まっていけないという状況が続き、焦燥感が募る一方でした。

そのため皆さんには、困った時は家族や先生に相談しながら、余裕を持って自分の進路について考えてほしいと思います。また、夢を持っている方は前向きに、出来ることから取り組んでほしいと思います！遅くなったと後悔しないよう頑張ってください！



◆仕事と学校の両立

久野 竜都

私は、高校入学前から仕事をしていました。仕事では、夏は暑く、冬は寒い環境で、時にはけがをしてしまうこともあり、体力的にも精神的にもつらいことが多いものでした。そのため、転職をしようと考えたときに、高卒の資格が取れ、かつ専門的な知識や技術が学べる東工業高校に進学しようと考えました。

入学当初はコロナウイルス感染症が流行し始めた頃で、学校が始まってすぐに休校になりました。その時は仕事が忙しかったため、少し安心した気持ちもありましたが、それと同時に高校生活への不安もありました。仕事は、朝六時半に起きて七時には家を出る。夜は毎日のように残業をする生活を送っていました。忙しい日は、五時に起きて、家に帰ると夜の十時ごろになるということもありました。そんな中、休校が明けると、仕事と学校の両立が始まりました。



したが、仕事の疲労で、出された宿題に手を付けられないということもありました。仕事と勉強の両立は私が想像していたよりも大変で、疲れ果ててテスト勉強に手が付けられず、赤点をとってしまいうちも多くありました。その結果、なんとかギリギリ進級ができるという状態でした。

ただ、苦しいことだけではありませんでした。学校行事のボランティア遠足は雨天のため地域のゴミ拾いは出来ませんでした。みんなが昼食を食べたり、体育館でスポーツをしたりしました。それではなかった他学年との交流

もでき、楽しく打ち込むことができませんでした。秋には東支部大会があり、スカッシュバレーをしました。対戦相手の学校が強くて全く歯が立ちませんでした。この時からクラスメイトと話したり一緒に買い物に行ったりするようになり、仲を深められる良い機会になりました。

なんとか順調に学校生活が進み始めていた矢先、二年生の夏にバイクで事故にあってしまいました。大けがをして三か月ほど入院をすることになり、仕事にも学校にも行けなくなりました。入院中は体を動かすこともできないため、何もできずストレスがたまる毎日を送っていました。

しかし入院期間が長引いて留年をしてしまうことだけはなんとかしても避けたかったため、全力でリハビリに取り組み、退院予定よりも二か月ほど早く退院することができました。

三年生になるころにはけがをした足もよくなり、仕事も学校もこれまで通り通うことができるようになりました。クラスメイトとはよく話した



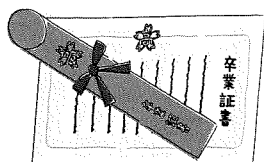
り、休みの日に出かけたりするようになっていたため、仕事と学校で忙しい毎日でしたが、楽しく充実した生活を送れるようになりました。仕事と学校の両立に少しずつ慣れ、授業の理解もこれまでよりできるようなったため、一年生のころにはギリギリだった成績も、少し持ち直してきました。

四年生になると、いよいよ進路を決定しなければならぬ時期になりました。私は、入学当時から働いていたので就職についての大きな心配はありませんでしたが、今の会社でずっと働くつもりではなかったため、LHの時間など

に、転職についていろいろと探してみました。しかし、自分のやってみたい職種ではなかったり、今よりも給料が下がったりと、学校に来ていた求人には私の希望と条件が合うものがなかったので、時間をかけて自分で探すことにしました。

進路決定について、在校生の皆さんに伝えておきたいことがあります。四年生の進路決定の時期になって、初めて職業について考えるというのは、なかなか厳しいところがあります。そのため、自分にはどのような仕事に向いているのか、また、働くというのはどういう責任があるのか、ということを経験してほしいということです。

ぜひ一度、なんでもかまわないのでアルバイトをしてみてください。そこで学んだことは必ず卒業してから役に立ちます。



◆ 高校生活を振り返って

松岡愛夢希

僕は中学生の時に精神的に弱ってしまい、学校にいけない時期がありました。三年生からは徐々に学校に行けるようになり、復帰をすることができましたが、行けていなかった一年間の遅れを取り戻せるか、という不安がありました。そのため高校に入学してからは、一から勉強しなおそうという気持ちで入学を迎えました。

思い返すと支えてくれた親や先生、友達が居てくれたから高校に行けたのだと思います。

高校に入学してみると人が少ないというのが第一印象でした。十人ぐらいいるだろうと予想していたクラスメイトは僕を含めて4人でした。入学してからは友達ができるといいな、と期待していたのですが、新型コロナウイルスの影響ですぐに休校になりました。中学校の時に歩いていなかった分、高校こそは真面目に行きたいと思っていたこともあり、とてもショックを受

けました。

休校期間に僕は、人生初のアルバイトを始めました。休校で家に居る時間を使ってお金を稼ごうと思ったからです。初めてのアルバイトは不安もありましたが、働いてみるとアルバイト先の人たちが優しく教えてくれ、そんな不安はすぐに消えました。また、アルバイトを通して、誰にも自分から挨拶ができるようになり、誰かのために働くという責任や大変さ、お金の大切さも学ぶことができました。

休校期間が終わると、クラスメイトと仲良くなりたいと思っていました。コロナウイルス対策のソーシャルディスタンスを保たなければいけないということもあり、一言も話さずに一学期が終わりました。そうこうしているうちにまたもや休校になってしまいました。そして長い休校期間が終わわり、やっとクラスメイトと仲良くなれると思ってもどんなふうにも話さなければいいのかがわからないまま、初めのボランティア遠足という

行事で初めてみんなと話をしました。どう話そうかと悩んでいましたが、いざ話してみると、最初は怖そうと思っていた人がすごく優しくなりました。みんな面白い人たちで安心しました。

それから少しずつ話す回数も増え、秋の東部支部体育大会という行事では、クラスのみならず仲間が深まりました。そして、みんなと連絡先を交換し、連絡を取り合うほどに打ち解けることができました。

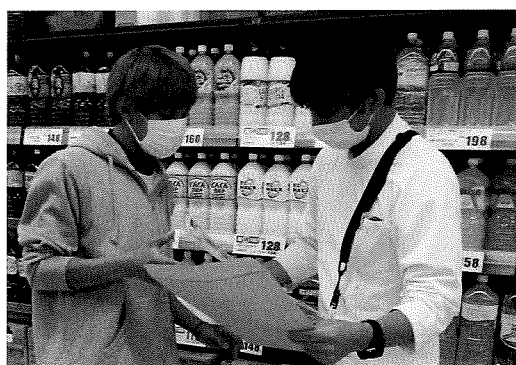
あつという間に1年間が過ぎ、新入生が入ってきたことで自分が進級したということを実感しました。二年生ではガス溶接の資格を取ったり一年生の時にはできなかったスポーツフェスティバルが開催されました。ガス溶接の試験は、実技試験と筆記試験がありました。実技試験は合格しましたが、筆記試験で落ちてしまいました。追試験に落ちたことで、もう少し真面目に授業や勉強に取り組もうという気持ちになれました。

初めてのスポーツフェスティバルでは学校でポッチャをしました。トーナメントでクラスメイトと戦ったり、普段あまりかかわりのない他学年の人たちの試合を見たりして、普段とは違う交流ができて仲良くなったと思います。そして二年生のおわりには、生徒会選挙に立候補し、人生で初めて、生徒会長になりました。

三年生になり、大きく変わったことは、スポーツフェスティバルで校外に出てポウリングをしたことと生徒会長としていろいろな役割を務めたことです。スポーツフェスティバルでは、ポウリングをするのが久しぶりだったので一つもピンを倒すことができませんでした。学校のみんなで一つの行事ができて盛り上がりました。また、生徒会長として、新入生や卒業生にあいさつなどもしました。生徒会長として生活をするうちに人見知りや克服できました。これは、全体の前にあいつをしたり、下級生と交流をしたりする機会が増えたことが大きいと思います。

四年生になると、自分の進路に向けての就職活動が始ま

りました。私はそれまで自分が何をしたいのかきちんと考えて決めていなかったのですが、探るのが難しく、面接練習や就職試験の勉強がとても大変でした。僕が先輩たちに伝えたいのは、四年生の進路決定の時期になる前に、自分のやりたいことを探しておいたほうが良いということです。そして自分で決めた目標に向かって高校生のうちに行けることを一生懸命に取り組んでほしいということです。学校生活はあつという間に終わってしまいます。長いようで短い学校生活なので一日一日を大切にしたい。有意義な高校生活だったと思えるようにがんばってほしいです。



卒業生の皆さんへ

生徒会長 橋詰 泰寿

●在校生を代表して

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表してご挨拶をさせていただきます。

四年間という長い学校生活を終え、新たなステージへ進む先輩の皆さんを、私達在校生は、誇りに思い、尊敬しています。

先輩方の存在は、私達後輩にとって大きな励みとなりました。先輩方が学校行事などで先頭に立つ姿を見て、自分自身も成長しようと努力してきました。先輩方の経験や知識を教えていただいたことを、本当に感謝しています。

四年生は、時には生意気な態度をとったり、失礼なことをしたりする後輩にも、いつも笑顔で優しく接してくれました。やわらかい雰囲気、私たちに背中を道を示してくれていたように思います。みなさんの優しさが学校全体を和やかな空気にしてくれました。

卒業は別れの時ですが、新たな出会いとはじまりの時でもあります。高知東工業高校定時制をご卒業される先輩方は、これから多くの出会いや経験をされることと思います。時には困難にぶつかるときもあるかもしれませんが、自分の夢や目標を信じて、突き進んでください。私達在校生も先輩方の成功を心からお祈りしています。

先輩方が築いてきた高知東工業高校の伝統や大きな背中を示してくれた道を、私達も大切にして、自分たちの目標に向かって進んでいきます。優しく温かく私たちを牽引してください。先輩方が卒業されることは、寂しく感じられますが、今度は私たちが高知東工業高校の伝統を受け継ぎ、守っていきます。皆さんのさらなる活躍とご多幸を祈っています。

令和5年度

卒業生各種表彰等受賞者

☆各種表彰者

● 専門高等学校等御下賜金記念優良卒業生 (産業教育振興中央会長賞)

松岡愛夢希

● 高知県産業教育振興会長賞

上妻 飛源

● 全国高等学校定時制通信制教育振興会長賞

松岡愛夢希

● 高知県高等学校定時制通信制教育振興会長賞

上妻 飛源

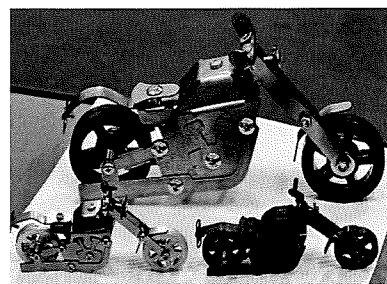
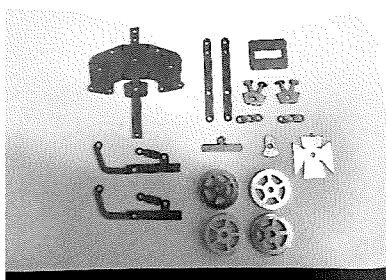


第17回 課題研究発表会

1月31日(水)『第17回 課題研究発表会』が本校、社会科教室にて開催されました。1学期から卒業に向けて自ら課題を設定し、入学時から得た知識と技術を駆使して取り組んだ研究成果が発表されました。テーマは、「組み立て模型バイクの製作」「ゼロハンカーの製作」「ロケットストーブの製作」の3つで、3名がそれぞれ取り組んだことをプレゼンテーションしました。

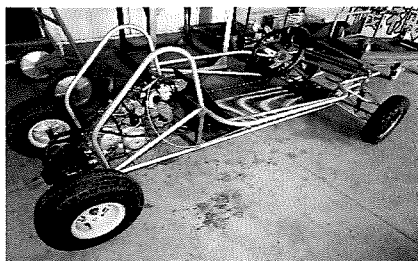
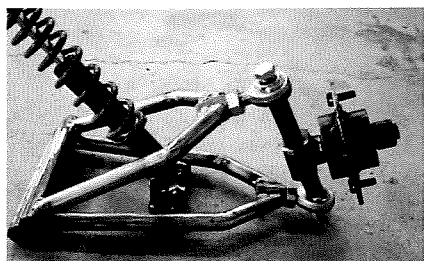
●組み立て模型バイクの製作●

CAD・CAM・レーザー加工機で材料を切り出し、タップを立て、皿ネジを使って、ドライバー1本で組み立てました。



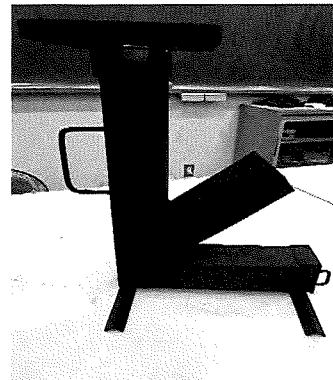
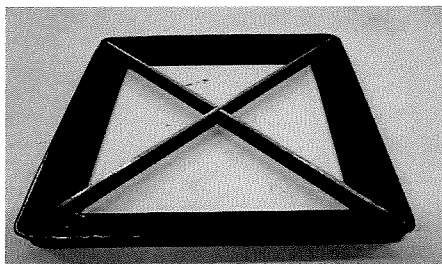
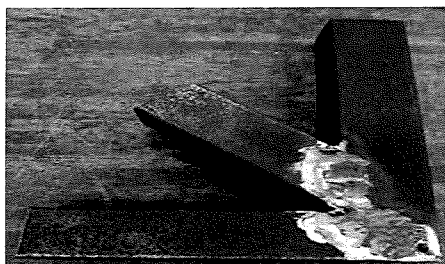
●ゼロハンカーの製作●

二つ上の先輩たちが製作したゼロハンカー(50ccエンジンを使用した1人乗りのバギー)を新たに製作することとしました。フレームとフロントサスペンションなどは新しく製作を行い、ハンドルやブレーキなどは前の車両のものを流用しました。機械加工や溶接など授業で学んだことを生かし製作に取り組みましたが、配線などあと少しで完成というところまで来ましたが完成には至りませんでした。



●ロケットストーブの製作●

私は将来したいことの一つにキャンプがあり、その時に使える道具を作ろうと思いました。色々な道具があるなかでロケットストーブの製作にしたのは、実用性のあるもので4年間の実習で得た知識や技術を生かして作ることができると思ったからです。



講
評

高知県教育委員会高等学校課 澤田浩志指導主事は講評で、3つの課題研究ともに、自分たちで研究内容を立案・実行したこと、生徒の学んだ技術の発展、応用への展望が広がる発表を高く評価して下さいました。また、1年生から3年生に向けて、今回の発表を聞いて、来年度以降も創意工夫を凝らした研究ができるように、これからも頑張ってくださいと話されました。

令和5年度 卒業生におくる言葉

令和6年3月 高知県教育委員会

御卒業おめでとうございます。

皆さんは、高等学校のそれぞれの課程を修め、本日ここに卒業を迎えられました。思い出多い学び舎を巣立つにあたり、高校生活に万感の思いを抱きつつ、これから始まる新たな世界に決意を新たにしていることでしょう。入学以来、皆さんが日々重ねられた誠実な努力を称えるとともに、輝く未来への第一歩を心から祝福します。野山には春の気が満ち、芽吹き季節を迎えました。木々や草花が緑豊かな葉をつけ、美しい花を咲かせることができるのは、大地にしっかりと張った根があるからこそです。日々変化する世界を生きる皆さんが、それぞれの夢を叶え、大きく成長していくには、根となるところ、つまり、これまでの経験や常識が通用しない予測困難な時代に対応するための資質や能力、とりわけ、困難に立ち向かっていく勇氣や、新たな価値を創造する力などが必要となってきました。

どうか、高等学校で培った力を礎とし、自らの可能性を信じることで未来を切り拓いてください。皆さん一人一人が、健やかに枝を伸ばし、美しい花を咲かせられることを願ってやみません。

これまで皆さんを育んできた郷土高知県に愛着と誇りを持ち、人を大切にし、生涯にわたって研鑽と向上を続けられるとともに、その力を、豊かで幸せな人生と持続可能な社会の実現のために役立ててください。

新たな旅立ちの日に際し、皆さんの未来が希望に満ちた輝かしいものとなることを祈念して、お祝いの言葉といたします。

令和六年三月一日